

# 消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成27年12月1日(火)～11日(金)

山形/モニター世帯数: 513世帯  
有効回答数: 472世帯(回答率: 92.0%)  
秋田/モニター世帯数: 374世帯  
有効回答数: 340世帯(回答率: 90.9%)

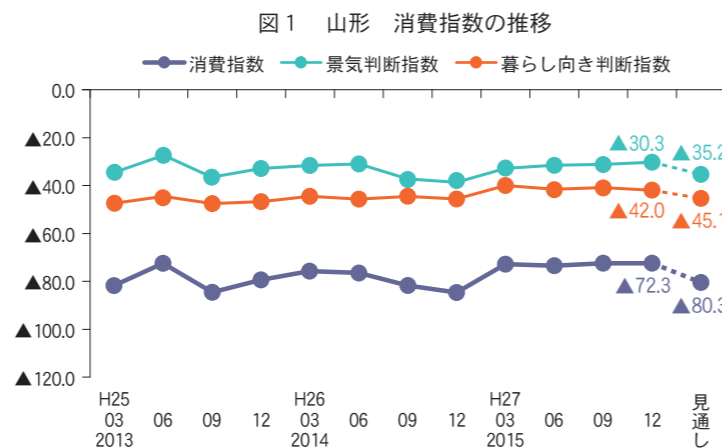
## 消費指数

### 第38回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは3期連続でほぼ横ばいながら、先行きは悪化の見通し～

消費指数は、▲72.3(前期比0.3ポイント上昇)と、3期連続でほぼ横ばいとなった。内訳は景気判断指数が▲30.3(前期比1.3ポイント上昇)と若干改善した一方で、暮らし向き判断指数が▲42.0(前期比1.0ポイント下落)と若干悪化となった。

今後の見通しは、▲80.3(今回調査比8.0ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲35.2(今回調査比4.9ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲45.1(今回調査比3.1ポイント下落)と、いずれも悪化の見通しとなっている。

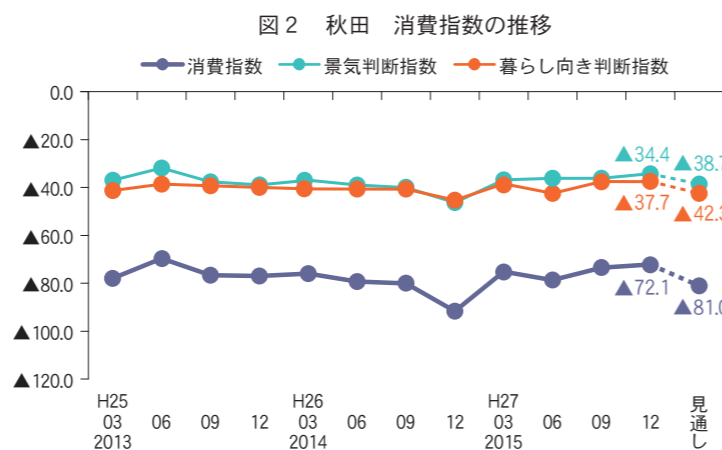


### 第18回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは2期連続で改善するも、先行きは依然慎重な見通し～

消費指数は、▲72.1(前期比1.6ポイント上昇)と2期連続で改善となった。内訳をみると、景気判断指数が▲34.4(前期比1.7ポイント上昇)と2期ぶりの改善となった一方で、暮らし向き判断指数は▲37.7(前期比0.1ポイント下落)と小幅ながら2期ぶりに悪化となった。

今後の見通しは、▲81.0(今回調査比8.9ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲38.7(今回調査比4.3ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲42.3(今回調査比4.6ポイント下落)とともに悪化の見込みとなっている。



#### 【指数の見方】

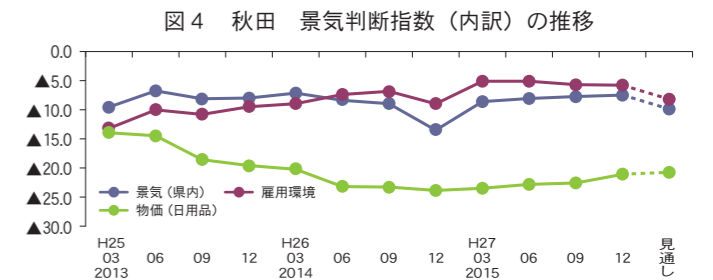
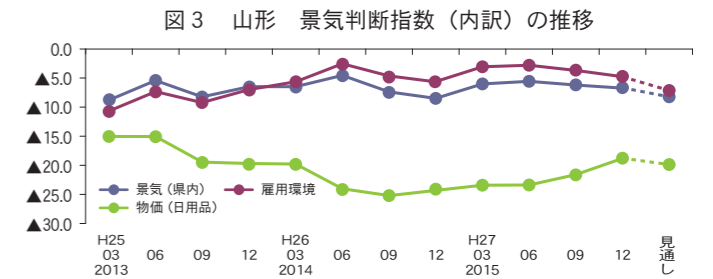
消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

## 景気と暮らし向き

### 景気判断

山形の景気判断指数は▲30.3(前期比1.3ポイント上昇)と若干改善となった。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」「雇用環境」が若干悪化したものの、「物価(日用品)」は改善となった。今後の見通しは、すべての指数で悪化が見込まれている。

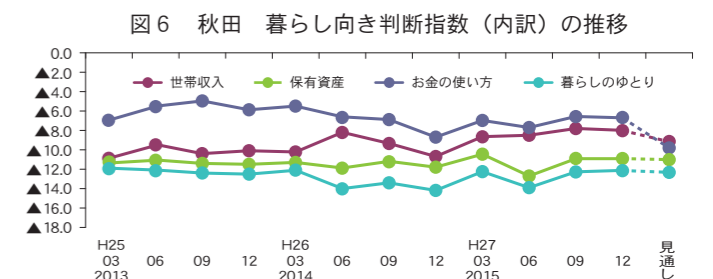
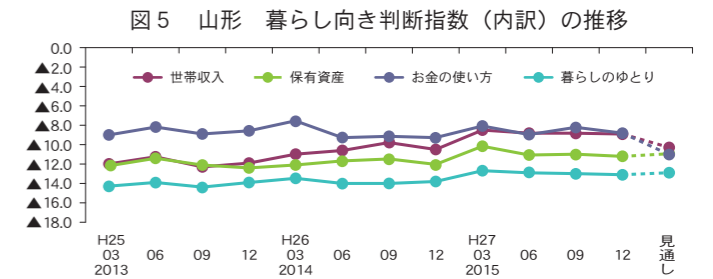
秋田の景気判断指数は▲34.4(前期比1.7ポイント上昇)と2期ぶりに改善した。指数を形成する個別指数では、「景気(県内)」と「物価(日用品)」がそれぞれ4期連続で改善した一方、「雇用環境」は小幅ながら2期連続で悪化した。今後の見通しは、「景気(県内)」「雇用環境」でともに悪化が見込まれる一方、「物価(日用品)」は小幅ながら改善の見通しとなっている。



### 暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲42.0(前期比1.0ポイント下落)と若干悪化となった。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、すべての指数でおおむね横ばいないし若干悪化となった。今後の見通しは、「世帯収入」「お金の使い方」で悪化が見込まれている。

秋田の暮らし向き判断指数は▲37.7(前期比0.1ポイント下落)と小幅ながら2期ぶりに悪化した。指数を形成する個別指数は、「暮らしのゆとり」は若干改善、「保有資産」は横ばい、「世帯収入」と「お金の使い方」は若干悪化となった。今後の見通しは、4項目の個別指数すべてで悪化が見込まれている。



### 家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が422千円と前年同期比で9千円の減少となり、支出面では支出合計が409千円と前年同期比で21千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は96.8%となり、前年同期に比べて2.9ポイントの低下となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が429千円と前年同期比で64千円の減少となり、支出面では支出合計が378千円と前年同期比で40千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は88.0%となり、前年同期に比べて3.3ポイントの上昇となった。

